

AR6 Chapter 8

「都市システム」の概要 とAR7に向けての展望

山形 与志樹(第8章LA)

エグゼクティブサマリー

都市化は世界的な傾向であり、
所得の増加や消費の増加につながることが多いが、
人と活動の集中が進むことは
資源効率を高め、規模に応じて
脱炭素化する機会である。

気候変動の緩和と適応のために都市で変革的な変化を実現するには、政府や非国家主体を含む複数のガバナンスのスケールを巻き込み、セクター別のアプローチを超えた実質的な資金調達と関連付ける必要がある。

都市と気候変動に関する特別報告書の作成に向けた AR7への準備

80カ国、700人以上の研究者、政策立案者、実務家から構成される
IPCCと9つのグローバルパートナーは「IPCC都市と気候変動科学会議」を共催し、
2016年のIPCC第43回会合で、AR7「気候変動と都市に関する特別報告書」を承認

GHG排出のドライバーとして主要な
研究優先事項を特定：

- 都市でセクターの相互作用を理解するための包括的な**システムズアプローチの必要性**
- **気候や他の都市プロセスとの関係**
- **低炭素でレジリエントな未来社会実現に向けた変革の達成**

世界的な政策課題に対応する報告書として、
AR6サイクル以降の科学的研究の分野として
カバーすべき項目：

- **マルチスケール**
- **コベネフィット**
- **グリーン・ブルーインフラ**
- **ガバナンスとGX(さらにDXにも注目)**
- **ファイナンス**